

「文部科学省がその事務及び事業に関し温室効果ガスの排出削減等 のため実行すべき措置について定める実施計画」に係る 取組について（平成 29 年度）

1. 実施計画について

平成 28 年 5 月 13 日に閣議決定された「政府がその事務及び事業に関し温室効果ガスの排出の抑制等のため実行すべき措置について定める計画」では、2013 年度を基準として、政府の事務及び事業に伴い直接的及び間接的に排出される温室効果ガスの総排出量を 2030 年度までに 40%削減することを目標とし、中間目標として 2020 年度までに 10%削減を目指すこととしている。これを受け、文部科学省においても「文部科学省がその事務及び事業に関し温室効果ガスの排出削減等のため実行すべき措置について定める実施計画」（以下「実施計画」という。）を平成 29 年 3 月 30 日に決定し、文部科学省として 2020 年度までに 2.6%削減を目指すこととし、本計画等に基づき取組を進めてきた。

2. 平成 29 年度の実施計画に係る取組に関する評価

- 温室効果ガス排出量
本府省庁においては昨年度比約 96%、2013 年度比約 107%となっており、地方支分部局等においては昨年度比約 95%、2013 年度比約 105%となっている。全体としては、昨年度比では約 96%であるが、2013 年度比では 107%となっており、2013 年度を基準とした中間目標である 2.6%削減を達成していないため、今後も引き続き温室効果ガスの排出量減に向けた一層の取組が必要である。
- 公用車に占める次世代自動車の割合
本府省庁においては、約 85%の公用車（34/40 台）が次世代自動車となっている一方で、地方支分部局等においては導入が進んでいない（0/1 台）が、全体としては、約 83%の公用車が次世代自動車となっており、2020 年度までの中間目標である公用車の 40%程度を次世代自動車とすることを達成している。

○ 公用車の燃料使用量

本府省庁においては昨年度比約 83%、2013 年度比約 76%となっている一方で、地方支分部局等においては、昨年度比約 107%、2013 年度比約 184%となっているが、全体としては昨年度比約 83%、2013 年度比約 77%となっており、2013 年度を基準とした中間目標である概ね 15%以上削減を達成している。理由としては、車両の更新などの際にはハイブリッド自動車を中心とした、次世代自動車の導入を実施したことなどが考えられる。

○ LED 照明の導入割合

本府省庁においては、昨年度の導入割合が 2.6%、2013 年度が 2.4%であったのに対し、2017 年度は 5.0%となっている。理由としては、研究交流センターにおいて照明機器更新の際に LED 照明の導入を実施したことによるものである。2020 年度までの目標値である 5.7%に向けて、今後も引き続き LED 照明導入に向けた取組が必要である。

○ 用紙類の使用量

本府省庁においては昨年度比約 87%、2013 年度比約 90%、地方支分部局等においては昨年度比約 96%、2013 年度比約 63%となっており、全体としては昨年度比約 88%、2013 年度比 87%となっており、2013 年度を基準とした中間目標である概ね 10%以上削減を達成している。理由としては、コピー用紙の両面印刷・集約印刷を省内で推進し、使用削減意識の向上がなされたことが考えられる。

○ 事務所の単位面積当たりの電気使用量

本府省庁においては昨年度比約 97%、2013 年度比約 108%、地方支分部局等においては昨年度比約 94%、2013 年度比約 126%となっており、全体としては昨年度比約 97%、2013 年度比 111%となっており、2013 年度を基準とした中間目標である概ね 2.9%削減を達成していないため、今後も引き続き電力使用量の削減に向けた一層の取組が必要である。

○ エネルギー供給設備等における燃料使用量

本府省庁においては昨年度比約 98%、2013 年度比約 125%、地方支分部局等においては昨年度比約 98%、2013 年度比約 104%となっており、全体としては昨年度比約 97%、2013 年度比 111%となっており、2013 年度を基準とした中間目標値である概ね 1.0%減を達成していないため、今後も引き続きエネルギー供給設備等における燃料使用量の削減に向けた一層の取組が必要である。

○ 事務所の単位面積当たりの上水使用量

本府省庁においては昨年度比約 102%、2013 年度比約 111%、地方支分部局等においては昨年度比約 105%、2013 年度比約 127%となっており、全体としては昨年度比約 102%、2013 年度比 115%となっており、2013 年度を基準とした中間目標値である概ね 0.32%削減を達成していないため、今後も引き続き単位面積当たりの上水使用量の削減に向けた一層の取組が必要である。

3. 今後の課題

照明・空調等の運用方法の更なる見直しを図るとともに、用紙の使用量削減に向けた取組の強化や、次世代自動車や省エネルギー型 O A 機器の導入を引き続き徹底し、環境負荷低減を図る。

省エネルギー・省資源・エコマテリアルなどに配慮し、グリーン化技術を積極的に導入した庁舎として整備された新庁舎を最大限有効に活用し、温室効果ガス削減に向けて引き続き取組を強化していく必要がある。